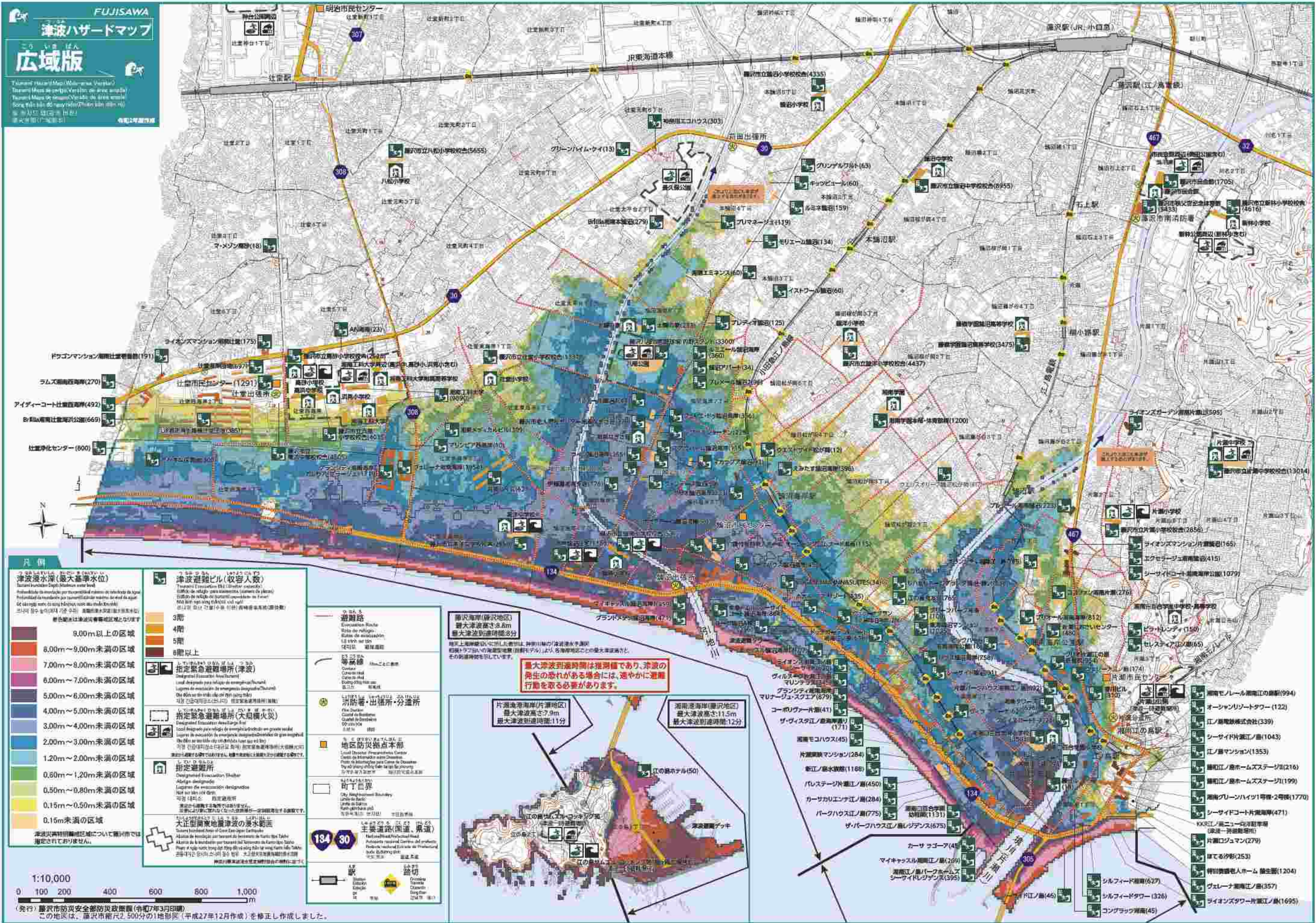




1 津波とは

津波とは地震等による海底地盤の隆起や沈降によって、海水が上下に変動することで引き起こされます。海水そのものが水の塊となって動くため、風によって引き起こされる波浪より威力は大きく、その規模によっては浸み食い破壊力を持っています。津波の「津」とは「港」を意味し、「波」とは津（港）に押し寄せる異常に大きな波のことを意味します。

津波の特徴



用語解説

- ▶津波高 海岸線における、平均海面から津波の水面までの高さ
- ▶到達時間 津波が海岸に到達するまでの時間
- ▶浸水深 それぞれの場所において、水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ
- ▶基準水位 浸水深+建築物等への衝突によるせり上げ高さ



3 津波警報・注意報と津波情報

津波による災害が予想される場合、津波警報（特別警報）、津波警報、津波注意報を発表し、同時に到達予想時刻や予想される津波の高さなど「津波情報」を発表します。津波による被害の恐れが無い場合は、津波予報を発表します。

警報・注意報の種類ととるべき行動

津波の種類	予想される津波の高さ	とるべき行動	想定される被害
津波警報	10m超 (10m未満)	沿岸部から避難している人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返して襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	3m (1m未満)	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！	橋の低いところでは津波が押し、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波予報	1m (0.2m未満)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。	海の中では人は漂い溺れるに巻き込まれる。小型船舶が沈没する。

※警報が解除に近い津波警報が津波の襲来に際しては、避難を促す場合があります。また津波警報の解除後も津波が襲来する場合は、「津波予報」(若干の海面変動)を発表します。

「巨大」という言葉を知ったら？

「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思っても、ただちにより高いところへ避難しましょう。

津波に関する情報の発表タイミング



2 津波から命を守るために

自分の命は自分で守る 海や川の近くにいる地震にあったら、すぐに避難することが大原則です。

津波から身を守るために

- 津波警報を見たり聞いたりしたら急いで逃げよう。揺れが小さくても大きな津波が起こることもあります。



- できるだけ早く海や川から離れましょう。津波は低いところから襲います。できるだけ早く、海や川から離れ、高いところへ逃げましょう。



- 津波は繰り返して襲ってくるので、津波警報が出ている間は避難をつづける。初めの波より後に来る波が大きいこともあります。



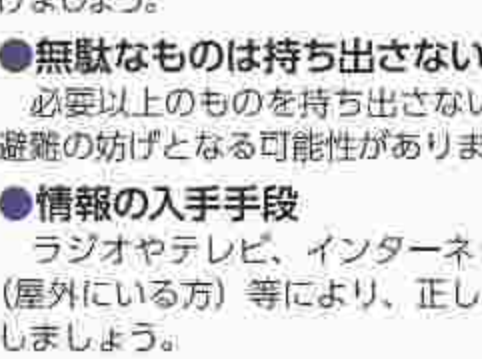
適切な避難のために

- 近くに高台が無い場合は？津波避難ビルや鉄筋コンクリート製の堅固な構造物のビルに逃げましょう。

- 車での移動は厳禁 道路の損傷や家屋の倒壊等、車での移動が困難になるほか、停滞した避難の妨げとなるため、車での移動は避けましょう。

- 無駄なものは持ち出さない 必要以上のものを持ち出さないようにしましょう。避難の妨げとなる可能性があります。

- 情報の入手手段 ラジオやテレビ、インターネット、防災行政無線(屋外にいる方)等により、正しい情報を事前に入手しましょう。



津波でんでんこ

「でんでんこ」とは「でんでんばらばらに」を表す東北地方の方言です。「津波はあつという噂にやってくるため、各自ででんでんばらばらに高台に逃げなさい」という意味を込めて「津波でんでんこ」と言われ、「はらの角ははら守る」という大原則を表しています。

家族や地域で事前に話し合う

津波避難は一刻を争うため、離ればなれになった家族を探したり、とっさの判断に迷って逃げ遅れてしまうことも少なくありません。そのため、たとえ家族が離ればなれになったとしても、適切な避難行動がとれるように、家族や地域でお互いの行動をあらかじめ話し合い、決めておくことが大切です。

津波フラッグ

気象庁が発表する津波警報等(津波注意報、津波警報、津波注意報)は、テレビ、ラジオ、緊急速報メール、防災行政無線等、様々な手段で対象地域にいる人々に伝達されます。視覚による伝達手段として、これまでオレンジフラッグを使用していたが、気象庁が令和2年6月に気象業務法施行規則及び予報警報認識規則を改正し、全国統一で「赤と白の格子模様の旗(津波フラッグ)」を使用することになりました。津波市では、令和3年度から「オレンジフラッグ」を「津波フラッグ」にかえて使用を開始しています。



4 東日本大震災の教訓

津波の教訓を生かす

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、約19,000人の方が津波の犠牲になりました。今後、このような犠牲者を出さないため、この震災の経験を教訓とし、震災を自分のこととして考えることも大切です。

見えてくる教訓

- ▶津波避難は一刻を争うもの。ためらわずに急いで避難する。
- ▶家族や親戚が心配でも、海や川のそばには絶対に戻ってはいけません。
- ▶車での避難は危険。渋滞に巻き込まれ、逃げ遅れることがある。
- ▶油断をしない。予想外に大きな津波に襲われることがある。
- ▶地震による停電や機器の故障などで津波警報等の情報がとれないこともある。情報に依存せず、適切に避難する。

津波災害に備えて

このハザードマップを見て、津波や津波避難について家族や地域で話し合いましょう。普段から、津波の恐ろしさや避難の方法など災害時の行動を話し合っておくことが、いつ襲ってくるかわからない津波に対する有効な備えとなります。

